

## 『非文字資料研究』の発刊を祝う

神奈川大学学長 中島 三千男



「神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料研究センター」(以下「非文字資料研究センター」と略す)は、2003年度に始まり2007年度に終了した神奈川大学21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」の事業を継承したものです。世界各地の非文字資料を扱う関連研究機関や個人研究者を組織し、世界的ネットワークを形成することにより、世界的に非文字資料の研究情報を集約し、それを世界に発信する研究教育拠点になることが期待されております。非文字資料研究センターがこうした期待に応える上で、ニュースレター『非文字資料研究』は大きな役割を果たすことが求められております。

そもそも、神奈川大学21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」は、人間の諸活動が多様な表現形態をとっているにもかかわらず、これまで人類文化研究がもっぱら文字・文章で表現された資料に限定されて行われてきたのに対して、非文字の諸事象を研究対象として取り出し、それらを資料化し、体系化することによって、人類文化研究の新たな地平を切り開こうというものであります。また、そのことにより、多文化共生社会の実現という、人類的・今日的課題の実現にも貢献しようというものでした。

幸いにも、この5年間のCOEの活動を通じて、これまで学問・研究の世界で必ずしも認知されていなかった「非文字」という用語が、海外においても“HIMOJI”として認知され、またそのことを通じて神奈川大学及び非文字資料研究センターの活動に対して強い関心と期待が寄せられるようになりました。

もちろん、本学のCOEが掲げた人類文化研究の新しい地平を切り開くという目標の達成という点では、ようやくスタート台に立ったというべきもので、総体としての非文字資料の資料化や体系化はなお今後の課題であり、また、非文字資料研究のための世界的なネットワークの形成や情報発信、さらには後継者・若手研究者の育成等は継続して発展させなければならない課題であります。

新しく発足した非文字資料研究センターがこうした諸課題に十分に答えられるような活動をされることを、そしてそのためにもニュースレター『非文字資料研究』が充実した誌面として世界に発信されることを期待しております。

1928年に創立された本学は、本年2008年に創立80周年を迎えました。この記念すべき年にあたり、本学は20年後の100周年にむけての「将来構想」(計画)を発表いたしました。その中では、本学が、「地域社会そして地球規模の課題を解決する、世界を惹きつけ、世界に発信する大学」を目指すことを宣言しております。非文字資料研究センター及び『非文字資料研究』がこの目標達成の先導役として、十分な役割を果たされることを期待し、また、学長としても、そのような役割を担う諸事業を積極的に支援していくことをお約束して、ご挨拶に代えさせていただきます。